



あの光がああの音楽が
きつとわたしのアオハル

アオハル

ミュージカル

青春するべ!

～由利高校民謡部ストーリー～

脚本・演出 鈴木 潤子 音楽 渡部 絢也 振付 三森 渚

蕨市民会館 50 周年記念事業

2024 年 6 月 16 日 (日) 開場 13:30 開演 14:00

蕨市民会館コンクレホール

主催：蕨市民会館

共催：蕨市・蕨市教育委員会

後援：蕨市文化協会 協力：蕨市♡わらび座マリアージュの会

チケット発売日 3 月 31 日 (日) 10 時

前売券
(全席自由席)

一般 3,000 円 高校生以下 1,000 円

★当日券は各 500 円増

※前売券で完売の場合、当日券はございません
※未就学児の入場はご遠慮ください

チケット取扱所

蕨市民会館 / 蕨市立文化ホールぐるる / 戸田市文化会館

発熱や風邪の症状等のある方はご来場をお控えください。感染防止対策にご協力ください。

お問合せ 蕨市民会館 埼玉県蕨市中央 4-21-29 ☎048-445-7660 (9:00 ~ 17:00)

高校生たちのドキドキ・クヨクヨ・キラキラストーリー!

高校二年生のさくらは、亡き母のふるさと、由利本荘市へ転校してきた。ひよんなつながりで同級生あやめから民謡部に誘われ、入部してしまう。施設の慰問公演や全国大会での優勝をめざして、部長のあやめを中心に厳しい部則の中、日々の部活動が始まった。初めての慰問公演は大雨。さくら、けやき、ぶっちの三人しか時間に間に合わず、出来る事をやろうとがんばるが大失態。その上、祖母のキジが突然倒れ入院。もう民謡部は続けられないと言うさくらに、民謡部の仲間がかけた言葉は……。そして県大会当日、思わぬ事態に民謡部の仲間が選択したことは……。 (この物語は、秋田県立由利高校民謡部への取材に基づくフィクションです)

私、今まで
他の誰かと頑張った事、
一度もなかった。

どこからか 聞こえる音楽

なんだろう 胸が高鳴る

ぼんやりと 記憶のかけらを

よびさます ひとすじの光

支え合い 迷いながら

精一杯 生きていた

光めざして がむしゃらに

仲間たちと 駆け抜けた

あの光が あの音楽が

きっと私の

きつと私のアオハル

CAST さくら/佐々木亜美、けやき/深谷雅之、あやめ/山田愛子、キジ・めがね/小松詩乃、ぶっち/平野つくし ※舞台写真は初演公演のものです。

STAFF 脚本・演出/鈴木潤子 音楽/渡部絢也 振付/三森渚 美術/高橋知佐 照明/井田宗幸 音響/佐藤亜希子
衣裳/市橋幸恵 小道具/平野忍 演出助手/飯野裕子 振付助手/丸山有子 舞台監督/堀木春花

脚本・演出 鈴木潤子メッセージ

生まれたての葛藤がたくさんあった青春時代。思いを正面から仲間とぶつけあって、苦しみも痛みも感じながら人を知っていきました。自分の限界を知ったのも、可能性も知ったのもあの頃でした。傷だらけで恥ずかしい思い出たち、だけどそれは今も私に力をくれてます。今絶賛アオハル中の人に、そしてアオハルを経験したすべての大人たちと、これからアオハルをすごす子供たちに、あの頃のように、この作品で正面からぶつかりたいと思って創りました。観終わった後、何もかも青かったときのような心の躍動を感じ、そしてあなたの心の音楽が聴こえてきましたら幸いです。

劇団わらび座

〒014-1113 秋田県仙北市田沢湖卒田字早稲田430
〈TEL〉 0187-44-3332 〈FAX〉 0187-44-3318
〈Mail〉 info@warabi.or.jp
〈WEB〉 <https://www.warabi.jp/>

わらび座とは 1951年の創立以来、日本の民族芸能をベースに、多彩な表現で現代の心を描く日本のミュージカルを多数制作上演している。複数の公演グループで年間約600回以上公演を行っている。海外公演実績は19ヶ国におよぶ。本拠地である秋田県仙北市の「あきた芸術村」のわらび劇場では、オリジナルミュージカルを上演、温泉やホテル、クラフトビールブルワリー、工芸品体験工房が立ち並び、あきた芸術村の教育旅行受け入れは40年以上の歴史を持ち、毎年150校の子どもたちが来村している。近年は、演劇スキルを用いた「シアターエデュケーション」を実践し、コミュニケーション力向上を目指す。多くの企業、団体、教育機関に受け入れられている。2021年に一般社団法人化、創立70周年を迎えた。